

置賜定住自立圏共生ビジョン (素案 ver.1)

平成 30 年 9 月 27 日

米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町

目次

1 定住自立圏共生ビジョンについて

(1) 定住自立圏共生ビジョンの目的	1
(2) 定住自立圏の名称	1
(3) 定住自立圏を形成する市町の名称	1
(4) 計画期間	1

2 圏域の概況

(1) 地勢	2
(2) 歴史的なつながり	2
(3) 各市町の概況	3
(4) 圏域の人口	7

3 圏域の将来像

(1) 圏域の将来像	11
(2) 圏域の将来展望人口	11

4 具体的な取組

(1) 生活機能の強化に係る政策分野	14
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	29
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	33

1 定住自立圏共生ビジョンについて

(1) 定住自立圏共生ビジョンの目的

定住自立圏とは、「中心市」と「近隣市町村」が連携して、都市圏への人口流出を防ぐとともに、定住を進めるために形成する圏域のことです。圏域内の各市町村は、独自性を互いに尊重しながら、連携・役割分担して、地域の活性化に向けた取組を推進することで、定住に向けた機能の充実や地域の魅力向上を目指します。

本共生ビジョンは、置賜地域における定住自立圏の将来像や、その実現のために、圏域内の市町が連携して推進する具体的な取組内容を示すものです。

(2) 定住自立圏の名称

置賜定住自立圏

(3) 定住自立圏を形成する市町の名称

米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町

(4) 計画期間

本ビジョンの計画期間は、平成 31 年度から平成 35 年度までの 5 年間とし、必要に応じて所要の変更を行います。

2 圏域の概況

(1) 地勢

置賜地域は、山形県の南部に位置し、米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の3市5町から構成される、東西最大56km、南北最大57km、総面積2,495.24km²に及ぶ地域です。南方は吾妻山地・飯豊山地を境に福島県及び新潟県に、東方は奥羽山脈を境に宮城県及び福島県に、北方は朝日山地・白鷹山を境に山形県村山地域に、西方は朝日山地を境に新潟県に接しています。

米沢、長井、小国の各盆地からなる地形環境は、圏域の77.1%を山林が占め、磐梯朝日国立公園や県南県立自然公園などの優れた景観に赤湯・小野川・白布といった多様な温泉、四季折々の自然風景や独特の食文化を生み出しています。明治時代、英国の女性旅行家イザベラ・バードがこの地を訪れたとき、その実り豊かな大地と人情の温かさから“東洋のアルカディア（理想郷）”と称したほどです。

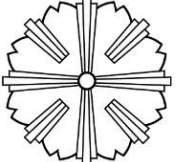
【圏域の概況】



(2) 歴史的なつながり

置賜地域は、明治の市制・町村制の施行や、昭和の合併などを経て、現在の3市5町の体制になりましたが、この地域は、江戸時代に上杉家の封地となって以来、明治まで、上杉家の下で独自の文化を発展させてきました。このため、地域内には上杉家にまつわる史跡が多く存在するなど、歴史的・文化的なつながりを有しています。

(3) 各市町の概況

	米沢市 人口：85,953 人 面積：548.51 km²	【特産品】 舘山りんご、米沢牛、米沢鯉、 米沢らーめん、うこぎ、雪菜 米沢織、笹野一刀彫 【観光施設】 上杉神社、上杉家廟所、伝国の杜、 米沢市上杉博物館、道の駅米沢、 道の駅田沢、米沢八湯 【主な催し】 米沢上杉まつり、なせばなる秋まつり、 上杉雪灯籠まつり、米沢牛肉まつり、 小野川温泉ほたるまつり、愛宕の火祭り
米沢市は、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地に位置し、福島県と県境を接しています。 歴史的には伊達氏、上杉氏の城下町として発展し、明治 22 年に日本で最初に市制を施行した 31 市の中の一つです。 交通面では、山形新幹線、奥羽本線、米坂線が通るほか、平成 29 年に東北中央自動車道が開通したことで、山形県の南の玄関口としての役割が期待されています。 米沢八幡原中核工業団地を有し、東北有数の製造品出荷額を誇る工業のまちという側面に加え、市内には山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学、山形県立米沢女子短期大学の 3 つの大学があり、学園都市としての側面も有しています。		
	長井市 人口：27,757 人 面積：214.67 km²	【特産品】 米沢牛、天然水、馬肉ラーメン、 行者菜、伊佐沢すいか、ホップ、 けん玉 【観光施設】 道の駅 川のみなと長井、 古代の丘資料館、文教の杜、 伊佐沢の久保桜、草岡の大明神桜 【主な催し】 ながい黒獅子まつり、 長井あやめまつり、 長井水まつり・最上川大花火大会、 長井 1000 人いも煮会、 長井マラソン大会
長井市は、東部には出羽丘陵地帯、西部には朝日山系の険しい山岳地帯、南部に長井盆地が広がる緑豊かなまちです。 長井の地名は「水の集まる所」に由来し、江戸時代には最上川上流部の舟運の拠点となる商業都市として発展しました。今も市内に残る町場景観は、平成 30 年に国の重要文化的景観に選定されています。 大正時代に開通した国鉄長井線は、現在は山形鉄道フラワー長井線として運行しており、ワイン列車やローカル線プロレスなどの特徴的な取組を行っています。 昭和期の積極的な企業誘致の結果、企業城下町として発展したものづくりのまちであり、現在でも金属加工を中心とする製造業が主要産業になっています。		

	南陽市 人口：32,285 人 面積：160.52 km²	【特産品】 さくらんぼ、りんご、ぶどう、 ラ・フランス、ワイン、清酒、ラーメン、 おかひじき、青芋織り 【観光施設】 赤湯温泉、熊野大社、南陽スカイパーク、 烏帽子山公園、双松公園、 ハイジアパーク南陽、稲荷森古墳、 結城豊太郎記念館、夕鶴の里資料館 【主な催し】 赤湯温泉桜まつり、南陽のバラまつり、 南陽の菊まつり、 赤湯温泉ふるさとまつり、 北条郷熊野の夏祭り、 ワインフェスティバル、 スカイフェスティバル
	高畠町 人口：23,882 人 面積：180.26 km²	【特産品】 米、ラ・フランス、ぶどう、りんご、 さくらんぼ、まつたけ、そば、牛肉、 清酒、ワイン、納豆、乳製品、 農産加工品（ジュース、ジャム、漬物等） 【観光施設】 亀岡文殊、まほろば古の里歴史公園、 旧高畠駅、道の駅たかはた、 浜田広介記念館、ゆうきの里さんさん、 高畠ワイナリー、昭和縁結び通り、 よねおりかんこうセンター 【主な催し】 青竹ちょうちんまつり、 たかはた咲食楽(さくら)フェスティバル、 クラシックカーレビューin 高畠、 大日如来わらじみこしまつり、 まほろば冬咲きぼたんまつり

	川西町 人口：15,751 人 面積：166.60 km²	【特産品】 米、米沢牛、日本酒、紅大豆、むくり鮎、ダリア
川西町は、古くは越後街道の宿場町として栄え、豊かな自然とともに稲作や米沢牛の生産が盛んな町です。また近年は、在来種である登録商標「紅大豆」に多くの関心が寄せられています。 町内には、日本最大規模を誇るダリヤ園、町出身の作家・劇作家井上ひさし氏に関する貴重な資料や蔵書などを収蔵する遅筆堂文庫・フレンドリープラザなどがあります。 地理的に置賜地方のほぼ中心に位置し、各市町からのアクセス性に優れていることから、地域の高度医療、救急医療を担う公立置賜総合病院が立地しています。近接する一般国道287号規格の高い道路や梨郷道路などの主要幹線道路の整備と併せ、病院周辺の土地を活用し、医療・住宅・商業が融合したまちづくりを進めています。		【観光施設】 ダリヤ園、置賜公園ハーブガーデン、浴浴センターまどか、フレンドリープラザ、遅筆堂文庫、アルカディア人物館、下小松古墳群、掬粋巧芸館、森のマルシェ 【主な催し】 ハーブガーデンフェア、かわにし夏まつり、地酒と黒べこまつり、小松豊年獅子踊、産業フェア、春待ち市、ダリヤカップマウンテンバイク大会、吉里吉里忌

	小国町 人口：7,868 人 面積：737.56 km²	【特産品】 山菜（ワラビ、ゼンマイ、アザミ等）、きのこ（マイタケ、ナメコ、キクラゲ等）、雑穀（タカキビ、アワ、アマランサス等）、イワナ、地酒
磐梯朝日国立公園に囲まれた小国町は、東京都23区がすっぽり入るほどの広大な町域の大部分がブナなどの広葉樹を中心とする森に覆われています。また、全国有数の豪雪の町として知られ、積雪が4メートルを超える集落も少なくありません。 こうした厳しい環境の中で自然と対峙しながら磨き上げてきた、マタギ文化や山菜文化に代表される特有の生活文化が、現在も暮らしの中に脈々と受け継がれています。 一方、町の中心部には半導体等の部材や特殊合金などの極めて高度な先端材料を生産するグローバル企業も立地し、山間地域には珍しい製造業を中心とした産業構造となっています。		【観光施設】 飯豊梅花皮（かいらぎ）荘、飯豊山荘、白い森交流センターりふれ、水源（みず）の郷パークゴルフ場、健康の森横根、白い森オートキャンプ場、大宮子易両神社、黒沢峠、道の駅白い森おぐに 【主な催し】 おぐに石楠花（しゃくなげ）まつり、小玉川熊まつり、おぐに夏まつり、

	白鷹町 人口：14,175 人 面積：157.71 km²	【特産品】 ミニトマト、そば、紅花、鮎、生乳、深山和紙・深山和紙人形、白鷹紬、天蚕紬 【観光施設】 深山観音堂、のどか村、道の駅白鷹ヤナ公園（やな場）、ふるさと森林公園（パレス松風）、どりいむ農園 【主な催し】 しらたか古典桜まつり、紅花まつり、鮎まつり、若鮎マラソン
白鷹町は、山形県の南部、置賜盆地の北端に位置し、町の中央部を南から北へ最上川が流れ、西は朝日連峰、東は白鷹丘陵に囲まれる自然豊かな地域です。 交通面では、南北に国道 287 号線が、町中心部から東（南陽市・山形市方面）へは国道 348 号線がはしり、鉄道については、南陽市赤湯から白鷹町荒砥までを運行区間とする山形鉄道フラワー長井線が通っています。 紅花の生産量が日本一であることから、「日本の紅（あか）をつくる町」をキャッチフレーズに、紅花まつりの開催や白鷹町に由来する「紅（あか）」を集めた「SHIRATAKA RED（シラタカ・レッド）」の商品開発などの取組みを行っています。		

	飯豊町 人口：7,304 人 面積：329.41 km²	【特産品】 米沢牛、米、アスパラガス、こくわワイン、どぶろく、わらび、菅笠、 【観光施設】 どんでん平ゆり園、めざみの里観光物産館、農家レストラン「エルベ」、広河原温泉 間欠泉、がまの湯 いいで旅館、ホトケヤマ散居集落展望台 【主な催し】 荒獅子まつり、めざみの里まつり、SNOWえっぐフェスティバル、全国白川ダム湖畔マラソン大会、いいで黒べこまつり
飯豊町は、山形県の南西部に位置し、総面積約のうち 8 割以上を緑豊かな山林が占めます。飯豊連峰から流れる清流白川が町を縦断し、最上川に注ぎ、全国的にも数少ない屋敷林に囲まれた、田園散居集落が美しい景観を形成しています。 飯豊町は「日本で最も美しい村」連合にも加盟しています。素晴らしい地域資源を持ちながら過疎にある町村が、自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと、地域の自立を推進すること、また、景観や環境を守り、地域の特色を観光資源として付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展を目指しています。		

(4) 圏域の人口

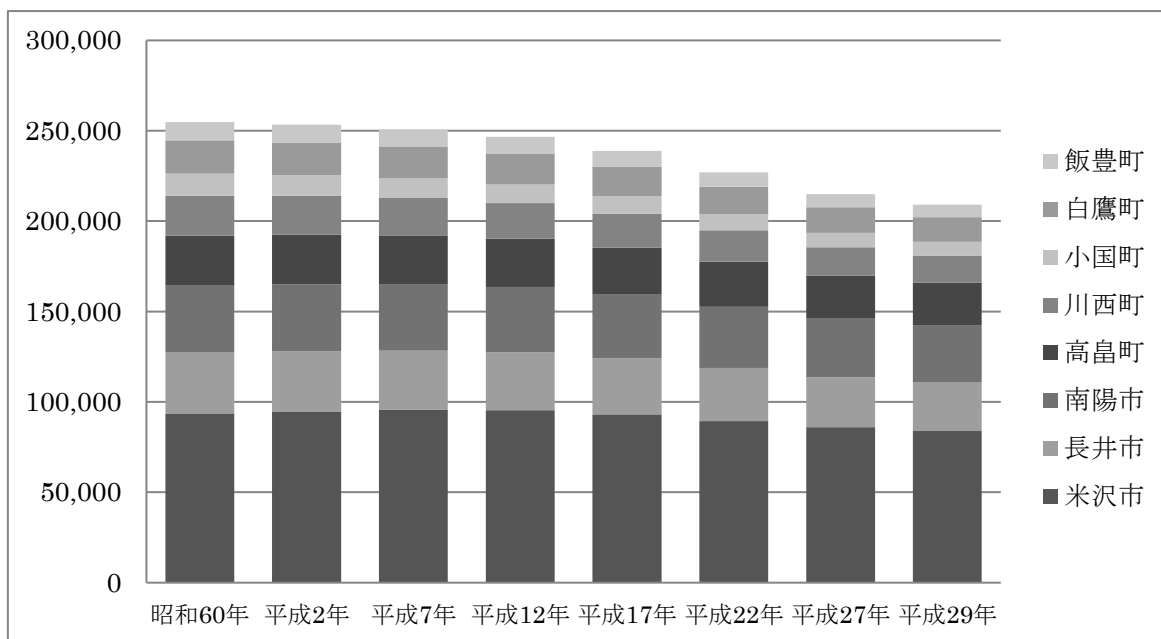
① 人口推移

国勢調査等の結果を見ると、圏域の人口は、平成2年から平成29年までの間に4万人以上が減少し、平成29年10月1日現在の圏域の人口は約21万人になっています。

【圏域の人口推移】

単位：人

市町名等	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年
米沢市	94,760	95,592	95,396	93,178	89,401	85,953	83,944
長井市	33,260	32,727	31,987	30,929	29,473	27,757	27,096
南陽市	36,977	36,810	36,191	35,190	33,658	32,285	31,555
高畠町	27,510	26,964	26,807	26,026	25,025	23,882	23,289
川西町	21,548	20,764	19,688	18,769	17,313	15,751	15,156
小国町	11,315	10,715	10,262	9,742	8,862	7,868	7,540
白鷹町	18,112	17,706	17,149	16,331	15,314	14,175	13,553
飯豊町	9,880	9,538	9,204	8,623	7,943	7,304	7,022
置賜圏域	253,362	250,816	246,684	238,788	226,989	214,975	209,155



出典：総務省「国勢調査」、山形県「平成29年山形県の人口と世帯数」

② 圏域の年齢3区分別人口の推移

圏域人口の推移を年齢区分別に見ると、平成2年から27年まで間に、老年人口（65歳以上）が1.5倍に増えている一方、生産年齢人口（15～64歳）は25%減少し、年少人口（0～14歳）にあつては44%も減少しています。

【圏域の年齢3区分別人口の推移】

単位：人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0～14歳	46,464	41,516	36,809	32,488	28,930	25,990
15～64歳	163,842	157,583	151,554	143,673	133,875	122,109
65歳以上	43,048	51,712	58,314	62,567	63,577	66,311
総数	253,362	250,816	246,684	238,788	226,989	214,975

※総数には年齢不詳者を含むため、各年齢区分の合計とは一致しない。出典：総務省「国勢調査」

平成29年10月1日現在の置賜地域の年齢3区分別の人口の割合は、山形県全体の割合と類似した傾向にありますが、全国と比べると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が低く、老年人口（65歳以上）の割合が高い傾向にあります。また、人口に占める老年人口の割合（高齢化率）は3割を超えています。

【圏域の年齢3区分別人口】（H29.10.1時点）

単位：人、%

市町名等	総数	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
米沢市	83,944	9,852	11.8	48,724	58.3	24,935	29.9
長井市	27,096	3,128	11.6	14,604	54.0	9,322	34.5
南陽市	31,555	3,737	11.9	17,488	55.5	10,277	32.6
高畠町	23,289	2,974	12.8	12,876	55.3	7,424	31.9
川西町	15,156	1,630	10.8	8,054	53.1	5,472	36.1
小国町	7,540	824	10.9	3,798	50.4	2,918	38.7
白鷹町	13,553	1,497	11.1	7,107	52.5	4,927	36.4
飯豊町	7,022	814	11.6	3,681	52.4	2,527	36.0
置賜地域	209,155	24,456	11.7	116,332	55.8	67,802	32.5
山形県	1,101,452	129,360	11.8	613,859	56.0	353,791	32.3
全国	12,672	1,560	12.3	7,596	59.9	3,515	27.7

※全国の人口総数の単位は「万人」

出典：山形県「平成29年山形県の人口と世帯数」

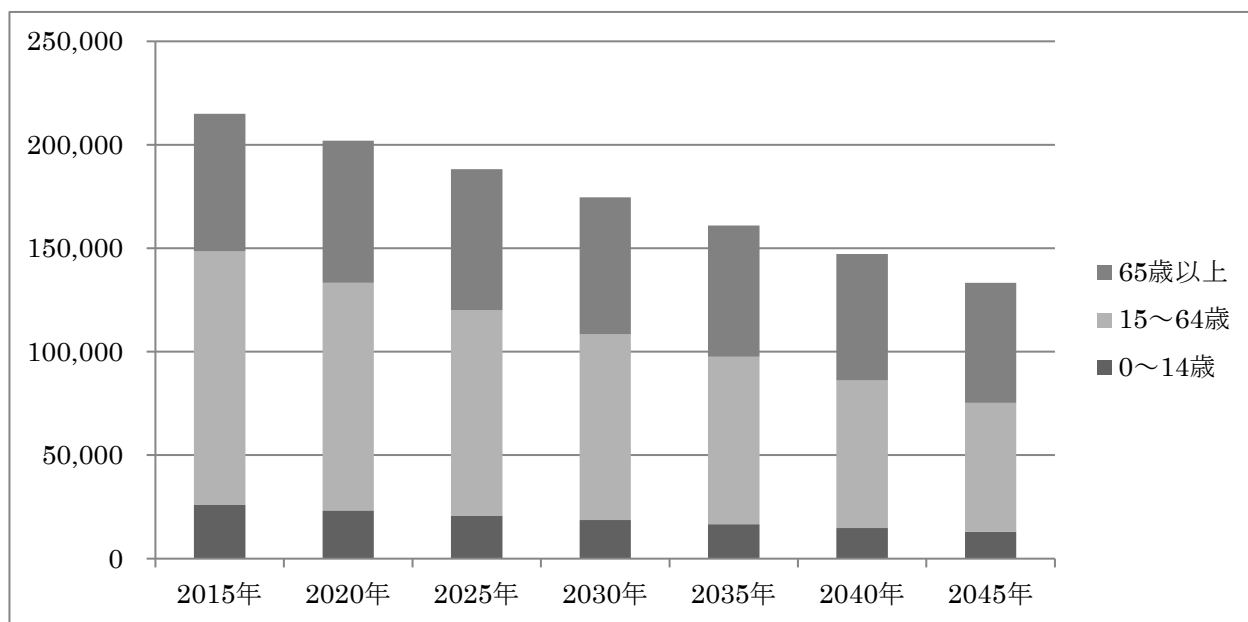
③ 将来推計人口

平成30年3月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計人口によると、今後30年で圏域全体の人口は4割近く減少する見込みとなっています。特に、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が約半分になる見込みです。

【圏域の将来推計人口（3区分別）】

単位：人

	2015 年 (平成 27 年)	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
0～14 歳	25,990	23,312	20,766	18,642	16,579	14,722	12,941
15～64 歳	122,522	109,988	99,367	89,814	81,040	71,412	62,396
65 歳以上	66,463	68,611	68,132	66,140	63,325	61,043	57,929
総 数	214,975	201,911	188,265	174,596	160,944	147,177	133,266



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

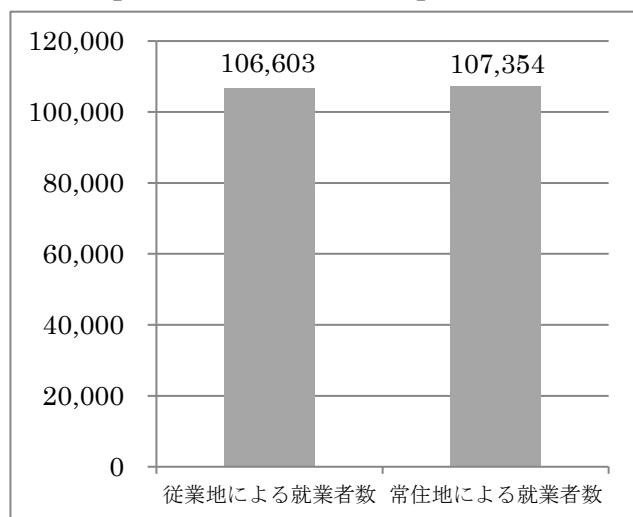
④ 地域の一体性

置賜圏域の特徴として、圏域内の人口のうち、従業地による就業者数と常住地による就業者数、昼間人口と夜間人口のそれぞれが、ほぼ一致していることが挙げられます。

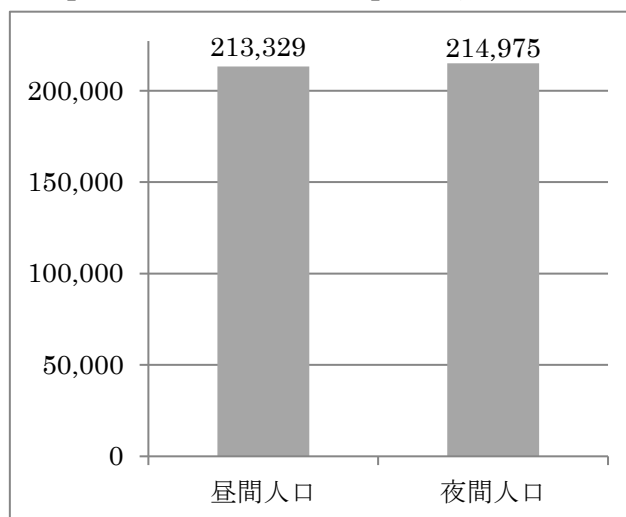
「圏域内市町における常住地と従業地の関係」を見ても、多くの住民が圏域内で就業等をしていることがわかり、圏域全体として、「職」と「住」が一体的な地域であることを示しています。

※従業地による就業者数：圏域外に住んでいる人を含む、この圏域で就業している人口
 常住地による就業者数：常住している人口のうち就業している人口
 昼間人口：常住している人口に、就業や就学で出入りする人口を加味した人口
 夜間人口：常住している人口（＝国勢調査における人口）

【従業者数・就業者数】（単位：人）



【昼間人口・夜間人口】（単位：人）



出典：総務省「平成 27 年国勢調査」

【圏域内市町における常住地と従業地の関係】

単位：人

従業地 常住地	米沢市		長井市		南陽市		高畠町		川西町		小国町		白鷹町		飯豊町		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
米沢市	35,681	85.9%	364	0.9%	830	2.0%	1,264	3.0%	777	1.9%	38	0.1%	34	0.1%	79	0.2%	2,479	6.0%
長井市	695	5.4%	8,203	63.9%	603	4.7%	137	1.1%	729	5.7%	99	0.8%	861	6.7%	656	5.1%	846	6.6%
南陽市	2,164	14.7%	902	6.1%	7,716	52.3%	1,269	8.6%	745	5.0%	35	0.2%	85	0.6%	161	1.1%	1,690	11.4%
高畠町	3,605	32.5%	251	2.3%	1,416	12.8%	4,483	40.4%	368	3.3%	15	0.1%	23	0.2%	36	0.3%	896	8.1%
川西町	2,007	29.5%	592	8.7%	698	10.3%	2,497	36.7%	492	7.2%	19	0.3%	43	0.6%	122	1.8%	339	5.0%
小国町	75	2.1%	126	3.5%	21	0.6%	6	0.2%	38	1.0%	3,134	86.3%	3	0.1%	55	1.5%	174	4.8%
白鷹町	174	2.7%	1,635	25.5%	170	2.6%	34	0.5%	157	2.4%	12	0.2%	3,403	53.0%	124	1.9%	712	11.1%
飯豊町	283	8.6%	944	28.6%	211	6.4%	50	1.5%	264	8.0%	86	2.6%	76	2.3%	1,279	38.8%	106	3.2%

※従業・通学者数は、15 歳以上の従業者及び通学者数の合計から、自宅において従業する者を除いた値。

網掛部は、自市町での従業・通学者。太枠部は、他市町村で従業・通学者数の割合が 10%を超える箇所。

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」

【従業者・通学者数】

単位：人

米沢市	長井市	南陽市	高畠町	川西町	小国町	白鷹町	飯豊町
41,546	12,829	14,767	11,093	6,809	3,632	6,421	3,299

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」

3 圏域の将来像

(1) 圏域の将来像

- 【案】 ① 自然・人・歴史・未来 共存共栄する「おきたま」
 ② 誰もが住みやすい地域へ 「おきたま」
 ③ つながる おきたま 共存共栄へ

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圈を共有し、社会、経済、教育などの面で深いつながりを持ちながら発展してきました。

これまでも、各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組を推進してきましたが、人口減少や高齢化が急速に進んでおり、今後も、こうした傾向は続くものと予測されます。

急激な人口減少は、生産年齢人口の減少による地域経済の縮小や労働力人口の減少、担い手不足による地域活力や地域機能の低下、社会基盤整備の維持管理コストや社会保障費の増加等による行財政の悪化などを招き、さらなる人口減少を引き起こしてしまうといった悪循環に陥る危険性をはらんでいます。

こうした状況の中、今後も、地域の活性化と持続的な発展を継続していくためには、単独自治体での事業展開には限界があるだけでなく、効率的ではないと考えられます。

このような認識の下、置賜圏域の8市町が、これまでに培ってきた協力関係を尊重しつつ、様々な分野において連携を深め、住民の暮らしに必要な諸機能を総体として確保するために、それぞれの自治体が有する都市機能や地域資源などの特色を活かし共存共栄することで魅力あふれる地域づくりを目指します。

(2) 圏域における将来展望人口

平成27年度に圏域内の各市町が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「人口ビジョン」を基に、本圏域における2040年における圏域全体の将来展望人口を172,512人とし、高齢化率を35.5%以下と定めます。

【圏域における将来展望人口】

(単位:人)

		2015 H27	2020 H32	2030 H42	2040 H52	構成比	社人研推 計との比較
将来展望人口 (人口ビジョン)	0～14歳	25,990	23,680	23,015	22,999	13.3%	8,277
	15～64歳	122,522	113,045	98,474	88,292	51.2%	16,880
	65歳以上	66,463	68,460	65,866	61,221	35.5%	178
	総数	214,975	205,185	187,355	172,512		25,335
将来推計人口 (社人研)	0～14歳	25,990	23,312	18,642	14,722	10.0%	
	15～64歳	122,522	109,988	89,814	71,412	48.5%	
	65歳以上	66,463	68,611	66,140	61,043	41.5%	
	総数	214,975	201,911	174,596	147,177		

出典：各市町「人口ビジョン」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」